

新★世界的公共の実践

■開催日時

2007年2月24日(土)

14:00~21:00

■会場

Art Theater dB

(大阪市浪速区恵美須東3-4-36)

■連携したアートNPO

・新世界アーツパーク未来計画
実行委員会(こえとことばとこ
ころの部屋、ビヨンドイノセン
ス、記録と表現とメディアのた
めの組織、ダンスボックス)

このアートNPOフォーラムでは、フェスティバルゲートという公設置民営施設をアートNPOが運営するにあたり、その可能性を探ることを目的としたフォーラムを開催しました。

ソーシャルインクルージョンやクリエイティブシティ(創造都市)の概念を導入することにより、大阪・新世界地域におけるアートの意味や位置づけを再確認することができました。

また、7月以降の暫定的公共利用の公募にあたり、フェスティバルゲートに拠点をかまえているアートNPOによる新世界アーツパーク未来計画実行委員会が提案する運営プラン、「フェスティバルゲート再生計画」をプレゼンテーション。

公募内容をオープンにすることによって、さまざまな意見を集約し、精査することにより、同地域におけるアートNPOの存在意義を明らかにしようと試みました。

なお、このフォーラムは、トヨタ・アートマネジメントフォーラム2006分科会Dに引き継ぎ、地域を越えてディスカッションを行いました。

全国アートNPOフォーラム in フェスゲ！ 開催概要

来場者数

来場者数 90人



タイトル

新☆世界的公共の実践
フェスティバルゲートをひらくための最前線戦術

日時

2007年2月24日(土) 14:00～21:00

会場

Art Theater dB
(大阪府大阪市恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート3F)

料金

¥2,000

主催

NPO法人アートNPOリンク
新世界アーツパーク未来計画実行委員会
NPO法人こえとことばとこころの部屋、
NPO法人ビヨンドイノセンス、
NPO法人記録と表現とメディアのための組織、
NPO法人ダンスボックス

協力

NPO法人芸術と計画会議C.A.P.、NPO法人国際芸術文化センター、NPO法人Japan Contemporary Dance Network

後援

NPO法人大阪NPOセンター、大阪市立大学大学院創造都市研究科、大阪市立大学都市研究プラザ、近代産業遺産アート再生学会、クリエイティブ・カフェ事務局、新世界町会連合会

主旨

2002年、公設民営方式でスタートした大阪市による「新世界アーツパーク事業」。異なる4つの分野のアートNPOは、これまで大阪・新世界や日本橋の地域などとも深く関わりながら、商業娯楽施設『フェスティバルゲート』を拠点にさまざまな活動を繰り広げてきました。

そのフェスティバルゲートは、これまで何度も存続の危機に直面し、とうとう本年7月に一端すべてがリセットされることとなり、その後の“暫定的公共利用”に向けた運営プランの公募が行われます。

このフォーラムでは、新世界アーツパーク未来計画実行委員会が提出する『フェスティバルゲート再生計画』をもとに、アートNPOが社会にどのような役割を果たせるかを自問しつつ、広く他ジャンルのNPOや企業などと連携をはかる市民主導の公共施設運営の可能性を探ります。

はてさて、新世界ならではの公共施設が本当に実現するのか!?…会場のみなさんを交えてのディスカッションを行います。

[スケジュール]

14:00 フォーラムスタート・挨拶

講演者・プロフィール

杉浦幹男 すぎうら みきお

大阪市立大学 都市研究プラザ特任講師

専門はコンテンツ産業政策、芸術文化政策、都市政策。

大阪デジタルコンテンツビジネス創出協議会、プロジェクト・マネージャー。

東京藝術大学美術学部卒業。

14:10 講演 杉浦幹男

「創造都市と大阪」

新たな都市活性戦略、『創造都市』。

世界的に注目されている創造都市とはなにか。

ここ大阪で創造都市の本質に迫る。

播磨靖夫 はりま やすお

財団法人たんぼぼの家理事長／社会福祉法人わたぼうしの会理事長／エイブル・アート・ジャパン常務理事／特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事

新聞記者を経てフリーのジャーナリストとなり、市民運動として障害のある人たちの生きる場「たんぼぼの家」づくりを展開する。またアートと社会の新しい 関係をつくるエイブル・アート・ムーブメント(可能性の芸術運動)の提唱やボランティア活動など民間非営利セクターの形成を通じた新しい市民社会づくりを試みている。

編著書に「みんな同じ空の下で生きている」(青也コミュニケーションズ)、「生命の樹のある家」(たんぼぼの家)ほか。

14:40 ラウンドテーブル

(講演を受け、会場を交えてディスカッション)

15:30 講演 播磨靖夫

「アートとソーシャル・インクルージョン」

さまざまな文化や人が豊かに共生する社会＝インクルーシブ・ソサエティの実現に向け、アートが果たしうることは何か。

16:00 ラウンドテーブル

(講演を受け、会場を交えてディスカッション)

18:00 プレゼンテーション

「フェスティバルゲート再生計画」

新世界アーツパーク未来計画実行委員会

18:30 ラウンドテーブル

(講演を受け、会場を交えてディスカッション)

20:00 交流会



新世界アーツパーク未来計画実行委員長であり、フェスティバルゲートに拠点をかまえるアートNPOダンスボックスの理事長大谷煥氏の口火でフォーラムが開始された。
フェスティバルゲートのこれまでの経緯についての報告と、今日の趣旨が語られた。



杉浦幹男氏による講演「創造都市と大阪」。フランス・ナント市やリール市でのクリエイティブシティの実践事例を交えながら、その概念についてわかりやすく説明があった。大阪市が提唱する創造都市戦略についても言及があった。



財団法人たんぼの家理事長でもあり、日本NPOセンターの代表理事でもある播磨靖夫氏により、まだ日本でそれほど知られていない「ソーシャル・インクルージョン」についての紹介があった。
淡々とした語り口に力強い意志がある。この後のフリーディスカッションでは、来場者とエイブルアートについての課題提起もなされるなど、白熱した議論が交わされた。



新世界周辺地域の現況、地域ポテンシャル、コミュニティの構造など、これまでのこの地域での活動によって把握された地域固有の課題を浮き彫りにし、その上でフェスティバルゲートに求められる機能とアートNPOの可能性について、公募を見据えたプレゼンテーションがあった。
会場を交えてのディスカッションでは終止発言が止まることのないほど意見が出された。具体性が乏しいなど厳しい意見のほかに、行政の視点から見た申請書類の書き方など個別具体的なアドバイスもあった。
もっとこれまでこの地域で取り組んできた自分たちの活動実績をもっとアピールすることが大切であり、その活動こそが重要であったということに気づくことができた。



カフェでの交流会風景。
青森、鳥取、横浜など全国各地からこの課題について問題意識をもつ方々が来場されていた。

〈第三種郵便物認可〉

経営破綻した大阪市浪速区の都市型立体遊園地「フェスティバルゲート」の公共利用案について、市民の立場から考えようとして、同遊園地を拠点

に活動するNPO法人ら24日、「全国アートNPOフォーラムinフェスゲ」を開き、市民のアイデアが実践される場

同遊園地は当初は所有する大阪市の売却する方針だったが、市が200億円を投入した土地、建物

の価値額がわずか8億

市民のアイデア実践を

NPO法人ら

「フェスゲ」の公共利用案考えるフォーラム

却することになってい

フォーラムは、同遊園地を拠点に活動するアート系の4つのNPO法人でつくる「新世界アーツパーク未来計画実行委員会」などが主催。全国のNPOや大学、企業の関係者ら約100人が集まった。

同実行委は、公共利用案としてアート、福祉、経済活動が一体となった活動ができる施設にする

との方向性を提示。高齢者や障害者、芸術家が協力して作品を生み出す場や、市民らのアイデアが実践できるような場にするなどの案が出された。

同実行委の甲斐賢治さんは「今回出た意見や、今後も市民から寄せられる意見を参考にしたい」と話していた。

同実行委は3月中に利用案の提案書を提出する。

2007

日 新 聞

フェスゲにNPO誘致

施設内アート4団体が提案

商品開発行う場設定も

大阪市が公共利用案を募集している複合娯楽施設「フェスティバルゲート」(同市浪速区)をめぐり、施設内のアートNPO四団体で構成する「新世界アーツパーク未来計画実行委員会」は二十四日、NPO誘致や商品開発計画などを盛り込んだ市への提案書の骨子を公表し、関係者や市民らと議論を深めていく方針を示した。

骨子案では、家賃を抑えるなどの工夫を凝らすなど、三年間で施設内にNPO法人と市民活動団体を数十団体設置できるように運営。団体間で連携しながら人材育成や地域との交流を進めるとい

また、研究機関の誘致や企業にも会員として参加する方針で自分たちの

面を促し、調査研究から立案、商品開発まで行える総合施設を提案。商品開発では障害者や高齢者などのニーズに注目し、施設に入居するデザイナーと当事者らが共同開発で商品を作るスタイルを想定している。

同委員会は「かかわる人全員が創意工夫し、自分たちの力で自分たちの



フェスティバルゲートの公共利用案が公表された「全国アートNPOフォーラム」

テーマに活動するNPOをはじめ、学生や大企業の社員ら約百人が集まって議論を交わした。今後、市への提出期限である三月二十二日までに案の詳細を決定。完成した資料はホームページに掲載する

市交通局の土地信託事業で経営破たんした同施設をめぐり、同局は施設を現状のまま売却する手法と、遅くとも二〇〇八年四月から最長四年間、公共施設として利用する手法を検討。公共施設としての利用案を公募している。

大阪で討論会 芸術NPO 役割探る

アート系非営利組織（NPO）で組織する新世界アーツパーク未来計画実行委員会などは24日、大阪市浪速区のフェスティバルゲートArt Theater dBで全国アートNPOフォーラム「新★世界的公共の実践」を開く。

大阪府立大学の杉浦幹男講師が「創造都市と大阪」、日本NPOセンターの播磨靖夫代表理事が「アートとソーシャル・インクルージョン」の題で講演するほか、会場の参加者を交えて討議する。アートNPOの役割を探り、企業などと連携した公共施設運営の可能性を探る。問い合わせはアートNPOリンク事務局☎ 075・231・8607。

季刊 上方芸能 2007年5月 164号

芸能文化の広がる都市に

ISSN 0810-5508

上方芸能

164
2007-6

特集 文化のチカラ—大阪の明日へ

杉浦幹男/大谷 雄/菊川徳之助/森西真弓/木津川 計
今尾哲也/上村以和於/藤部幸雄/山田庄一
青木 繁/川濱春香/榎藤芳一/西村彰則
有栖川有栖/寺田 操/大谷晃一/藤本義一

各界17氏が寄せる 大阪文化の再生に必要なもの
フォーラム「新★世界的公共の実践」ルポ
(大阪市創造都市戦略)に寄せて

KAMIGATA-GEINO

文化のチカラ

まず、杉浦幹男氏（大阪府立大学都市研究プラザ）による「創造都市と大阪」の講演が行われた。そこでは重工業都市から文化都市へと転身を遂げたフランスのナント市・リール市を例に挙げながら、具体的な数字や実行

その後は、暫定的公共利用に向けて運営プランの公募が行われることになった。

その決定を受けて2007年2月24日、「全国アートNPOフォーラム in フェスゲ！ 新★世界的公共の実践」がフェスティバルゲートで開かれた。



「イベントをするときに、急に有名な既存のプロデューサーのような人を連れてきたことが失敗だ。細切れの単発イベントばかりでは、今

「深さが無い」

「イベントをするときに、急に有名な既存のプロデューサーのような人を連れてきたことが失敗だ。細切れの単発イベントばかりでは、今

また、同様のフォーラムが「アートNPO的」経営戦略として東京で開かれた。詳細はNPO法人アートNPOリンク事務局 <http://arts-npo.org/>

2001年3月に策定された「大阪市芸術文化アクションプラン」に基づいて、2002年に公設民営方式でスタートした大阪市による「新世界アーツパーク事業」。異なる4つの分野のアートNPOが商業娯楽施設「フェスティバルゲート」を拠点にさまざまな運動を展開してきた。しかし同施設全体の集客力は振るわず、テナントは徐々に撤退、娯楽遊具もそのほとんどが撤収される状況が続いた。ついに2007年7月、いったんすべてがリセットされることとなった。

方法を紹介。日本、特に大阪における行政施策の問題点や改善すべき点を「クリエイティブ産業」の観点からも論じた。

その後のラウンドテーブルでは、アート関係者をはじめ、地元商店街の店主や、大阪市などの外郭団体職員、また民間の芸術芸能系の施設に関わる人たちなど、関西近郊にとどまらないさまざまな立場の参加者から、現状における行政や民間の政策の迷走について「大阪は本当に衰退している自覚があるのか？ 自覚がないので明確なビジョンも方法も打ち出せないのではないか」「誰かに委託する場合でも、変に口出しをせず、任せきってしま

うという懐の深さが無い」

「イベントをするときに、急に有名な既存のプロデューサーのような人を連れてきたことが失敗だ。細切れの単発イベントばかりでは、今

また、同様のフォーラムが「アートNPO的」経営戦略として東京で開かれた。詳細はNPO法人アートNPOリンク事務局 <http://arts-npo.org/>

「全国アートNPOフォーラム in フェスゲ！ 新★世界的公共の実践」ルポ

まで培ってきたものを次へつなげることができていない」などの厳しくも真摯な意見が相次いだ。

次に播磨靖夫氏（財団法人たんぼの家理事長）による「アートとソーシャル・インクルージョン」講演。さまざまな文化が人や豊かに共生する社会の実現に向け、アートの果たしうる可能性について語られた。特に障害者（マイノリティー）の芸術文化活動については、これまで話題に上ることも少なかっただけに、聞き入る参加者の姿が見られた。

最後に新世界アーツパーク未来計画実行委員会が「フェスティバルゲート再生計画」として作成したフェスティバルゲート暫定の公共利用コンベン用「フェスティバルゲート公共利用案提案協議案提案Ver.0.6」に沿って、5年間のそれぞれのNPOの活動、成果を基に今後の展開について発表した。理想論だけでは機能し得ないアート、文化運営のあり方の模索がますます必要になることを実感させる内容と意見交換の場となった。